

**南桜井駅南口からはなみずき通りまでの交差点の安全確保**



会田 吉幸  
議員

南桜井駅から300メートル程、南に向かった交差点は、交通量が非常に多く、見通しが悪いので、交通事故も発生しており、大変危険に感じます。また、横断歩道については、セブンイレブン米島店の交差点を利用してほしいとなると、70〜80メートル程度坂を下ってから上らなくてはならず、高齢者や自転車利用者、小さな子どもを連れた住民には、南桜井駅南口の交差点に横断歩道がないことは、非常に不便であり危険です。

この交差点の安全確保のため、横断歩道の設置および横断者注意喚起灯の設置を要望するとともに、この交差点について、市の認識と対応を伺います。

**○市民生活部長**

南桜井駅南口の市道1―112号線と市道9―4284号線の交差点については、横断歩道や信号機のない交差点

でありながら、交通量が多いことを把握しています。

そのため、交差点付近には、注意喚起のためにカラー舗装および道路区画線の塗布を行ってまいります。また、自動車や歩行者への注意喚起などの看板を設置し、交通事故防止、安全確保に取り組んでいます。

横断者注意喚起灯の設置については、横断歩道の設置が必須となり、市に設置の要望があります。また、速やかに公安委員会に要望してまいります。

**このほか**

○南桜井駅周辺踏切の安全対策について

**学校施設の今後について**



永田 飛鳥  
議員

箱物施設の中で教育施設は全体の約6割という大きな部分を占めています。公共施設

マネジメント基本計画の目標において、施設総量を約20%縮減するなどを推進していく上で、重要な施設であります。

また、近年の少子高齢化社会では、学校を利用するお子

さんの数が圧倒的に減ってきている状況であり、先日、各学校で行われた中学校の体育祭などでも、その現状が見える学校も少なくなかったのではないのでしょうか。このことから学校施設の見直しは課題であると考えられています。

豊春地区の各小・中学校のピーク時と現在の児童生徒数と、今後の予想を伺います。

**○学務指導担当部長**

豊春地区の小・中学校の児童生徒数合計が最大となったのは昭和61年度となります。

豊春小学校は昭和61年度1205人、令和5年度550人、立野小学校は昭和61年度1752人、令和5年度512人、宮川小学校は昭和61年度616人、令和5年度164人、豊春中学校は昭和61年度1174人、令和5年度400人、大増中学校は昭和61年度779人、令和5年度526人、令和5年度1905人です。

国全体の人口が減少傾向にあるという状況から、児童生徒数は今後も減少していくものと考えられます。

○都市計画道路について

**鉄道高架事業について**



奥沢 裕介  
議員

東武線春日部駅は、明治32年に開業して以来、交通の要衝の地として、沿線地域の発展に寄与してきました。

しかし、戦後、強靱な道路網が張り巡らされるにつれ、中心市街地の人や車の移動、交流を分断し、まちづくりのさらなる発展を阻害している

東武鉄道の2路線ですが、今年2月に、春日部駅東口の仮駅舎が供用開始したことにより、課題解決への希望のともしびを照らしています。

今後の鉄道高架事業のスケジュールについて伺います。

**○鉄道高架担当部長**

今後の事業スケジュールについては、今年度は事業に必要な用地の取得を重点的に進めるとともに、東武伊勢崎線

上り線の仮ホームと仮線路の設置工事を進めていきます。続いて、東武伊勢崎線下り線、野田線の上下線の順に仮ホームと仮線路を東口側に寄

せる形で設置し、西口側に高架橋を建設するスペースを生み出します。その後、西口側から東武野田線の上下線、伊勢崎線下り線、上り線の順に高架橋の建設を進めていきます。引き続き、埼玉県、東武鉄道と連携し、令和13年度の完成に向けて事業に取り組んでいきます。併せて、市としては、鉄道高架事業の効果を最大限発揮できるよう、まちづくりを進めていきます。

**このほか**

○幸松排水機場の維持管理について

○チャットGPTについて



高架後のイメージ図

## 春日橋の今後について



山口 剛一  
議員

本市は令和3年5月に、埼玉事業Next川の再生「水辺deベンチャーチャレンジ」の事業登録を行いました。コロナ禍の影響もあり、協議会が開催できずに事業が進みませんでした。本年3月に「大落古利根川河川広場等利用調整協議会」が開催され、春日部駅東口の地域資源である新町橋から埼玉葛橋までの古利根川兩岸の利活用の検討が始まりました。私は5月23日の経済活動分科会に地元経済3団体を代表して参加させていただきましたが、その際に「春日橋」の重要性についての意見がありました。

そこで、本市における春日橋の変遷、長寿命化の考え方、今後について伺います。

○建設部長

春日橋は、大落古利根川に架かる橋梁で、昭和35年に建設されてから今年度で63年が経過しています。現在、古利

根川左岸側の八丁目地区から右岸側の粕壁東2丁目地区の方向に一方通行の交通規制がされています。

長寿命化については、適正に維持管理することが法令化され、市内全ての橋梁に対し、5年に1度の点検が義務付けられ、この点検結果に基づき順次長寿命化を図っています。今回の点検を令和7年度に予定しており、点検結果を踏まえ、適切に長寿命化を図っていきたくと考えています。

このほか  
○本市の職場環境・働き方について



現在の春日橋の様子

## マンション管理 適正化推進計画の 作成について



鈴木 一利  
議員

現在、マンションの抱えている問題の一つに、高経年マンションの増加が見込まれていることがあります。今後、大規模修繕工事を実施していかないと外壁の剥落など、地域の居住環境にも大きな影響が生じてしまう恐れがあり、行政からのマンション管理組合などへの支援も必要な場合があります。

そこで、マンション管理適正化推進計画と認定制度の概要およびメリット、また、春日部市独自の認定基準を作成していくことで、より一層、マンションと地域の融合が図れるとも考えますが、本市の見解を伺います。

○都市整備部長

マンション管理計画認定制度は、適切な管理計画を有するマンションを自治体が認定するマンション管理適正化法に基づく制度です。メリットとしては、安心して住み続け

られるマンションかどうかの判断材料となることから、マンションの資産価値の向上が期待されるものです。また、一定の要件を満たした場合に固定資産税が減額となる特例措置が受けられるものです。市独自の認定基準については、計画と認定制度を策定した後、他の自治体の状況も勘案しながら検討していきたいと考えています。

このほか  
○緊急通報システムの拡充について  
○子どもの居場所づくりについて

## 南桜井駅周辺における 基本構想について



榎野 博  
議員

南桜井駅周辺には、幾つかの広大で開発可能な土地があります。まちづくりで都市機能施設はバランスよく配置されることが必要であると考えます。そこで、以下伺います。①本市は地域形成を民間に委ねることなく、市が具体的に事業計画を考えているの

か②開発行為は地域の理解が必要ですが、地域住民と開発事業者との合意形成はどのように図るのか。また、合意形成がうまくいかなかった場合はどうするのか③開発行為において、先住者と新規参入者が安心安全な生活を送るために市長はどのような考えがあるのか。

○都市整備部長

①立地適正化計画において、具体的な区域や施策について定めています。南桜井駅周辺は都市機能誘導区域に位置付け、医療・福祉・商業・子育てなど都市機能の増進に寄与する誘導施設を集約する計画となっています。②春日部市開発事業の手続及び基準に関する条例を制定し、近隣住民と開発事業者との合意形成を図ることで、紛争の防止に努めています。また、条例においても自主的に紛争が解決しない場合は、あつせんや調整の仕組みを設けています。

○市長

③本市としては、条例に基づき、周辺住民の方々の意向にに応じて、あつせんや調整を行うことにより、紛争解決に向けて取り組んでいきたいと考えています。

## 市立医療センターの運営について



鬼丸 裕史  
議員

市立医療センターは、「地域がん診療連携拠点病院」として、数々の最新鋭の高精度医療機器を整備し、医師や看護師などの医療スタッフの人員確保も順調に行っており、新病院誕生以来、黒字決算を維持しています。今後は「紹介受診重点医療機関」になる予定であり、「地域周産期母子医療センター」の認定も目指す市立医療センターの今後の方向性について伺います。

### ○病院事業管理者

当センターは誕生を契機に、施設や医療機器など機能面の充実や職員の意識の高揚を図り、丁寧で良質、安全な医療の提供に取り組み、着実に運営実績を上げてきました。今年度は、持続可能な地域医療提供体制の確保を目的とした「経営強化プラン」の策定を予定しています。このプランには、公立病院として担うべき役割を継承しつつ、デジタ

ル化への対応や地域医療連携のさらなる強化などの新たな視点を加え、今後の経営指標に係る数値目標や施設の大規模修繕計画などをしっかりと位置付けていきます。

今後も、医療機器などの整備を計画的に行うとともに、医療スタッフをさらに充実させ、公立病院としての地域医療連携の一層の強化を図りながら、市民の命と健康を守る基幹病院としての役割をしっかりと担ってまいります。

### このほか

○クレヨンしんちゃんの活躍について



栗原 信司  
議員

## 青パトの運営方法について

青パトに関しては、2006年3月に取り上げました。その時、200台を超える公用車が市内を走り回ることから、これに青色回転灯をつけることは防犯活動に役立つのでは、と訴えました。その後2台、4台と増車していただき、現在では民間や自治会、

ボランティア団体のご協力をいただき運営されています。最近、町会長さんから相談がありました。青パトを運転するには講習を受ける必要があるにもかかわらず、1年交代の町会役員が多いことから、せっかく講習を受けても、退会することで青パトから離れてしまうとのことでした。講習自体は無料で、短時間ではありますが何かもつたいない気がします。市として何か対策はないのでしょうか。

### ○市民生活部長

今後開催する青パト講習会において、活動の重要性や必要性を説明し、継続的な活動を依頼してまいります。また、講習会の回数を増やすことを検討するとともに、市広報紙やSNS、ホームページを活用し、青パト活動をはじめとした防犯ボランティアに対するご理解やご協力への啓発に取り組んでまいります。

### このほか

- AYA世代のがん患者への在宅療養支援について
- Maasの導入について
- 今後の春日部のまちづくりのイメージについて
- 学校給食費以外の支払い方法の統一について

## 全国市議会議長会表彰

令和5年6月14日に開催された全国市議会議長会第99回定期総会において、次の方が表彰されました。

また、6月定例会の会期中に、表彰状ならびに記念品の伝達が行われました。

### 特別表彰【在職20年】

○並木 敏恵 議員



## 編集後記

新型コロナウイルスが本定例会前に、2類相当から5類に移行され、市内外で各種イベントが4年という長きにわたる自粛期間を耐えて再開され始めています。まちににぎわいが戻り、人々の笑顔が戻ってきたこと、厳しく苦しい自粛期間を耐えてこられた多くの方のご理解、ご協力のたまものでございます。人知れずのご尽力に議員一同、感謝申し上げます。

さて、本定例会で条例の改正や補正予算などの議案18件、請願2件のほか、議員提出議案6件が慎重に審議されました。中でも昨今の異常気象や線状降水帯による災害を軽減することや、高騰するエネルギー負担の軽減につながる「省エネ家電買い換え促進による生活者支援事業」を含めた補正予算が、全員一致で可決されました。

市民の皆さまの生活支援の一助になることを期待し、今後も皆さまの生活を守るべく市議会議員一同、精進してまいります。

### 広報広聴委員会

- |        |       |
|--------|-------|
| 委員長    | 山口 剛一 |
| 副委員長   | 木下三枝子 |
| 委員     | 会田 吉幸 |
| 委員     | 平沢 一博 |
| 委員     | 阿部 雅一 |
| 委員     | 奥沢 裕介 |
| 委員     | 中村 貴彰 |
| 委員     | 大里 昇  |
| オブザーバー |       |
| 議長     | 荒木 洋美 |
| 副議長    | 吉田 稔  |

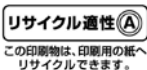
〒344-8577

埼玉県春日部市中央六丁目2番地

春日部市議会

Tel 048-736-1111 (代表)

内線3116



この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。